

一般的に「交わり」とは、つきあいや交際のことを言います。しかし聖書の中で「交わり」と訳されるギリシア語「コイノーニア」に関していうと、その意味は少し特別なものとなります。

主日にささげられる聖餐式の式文を見てみましょう。まず参入のところで司祭は「主イエス・キリストよ、おいでください」と唱えます。つまり聖餐式という礼拝は、イエス様との交わりの中でおこなわれているのです。また司祭は、「主は皆さんとともに」と三つの場面で言いますが、常にイエス様が共にいることを感じながら、わたしたちは礼拝をささげているということです。

さらにキリストの体と血としてパンとぶどう酒をいただくとき、わたしたちはまさしくキリストとの交わりの中で生かされる者となるのです。

そしてキリストとの交わりに与った人は、神さまからいただいた賜物を用いて他者との交わりに導かれていきます。

2012 年に開かれた日本聖公会宣教協議会では、「日本聖公会＜宣教・牧会の十年＞提言」が出されました。その中には、「主にある交わり、共同体となること＜コイノーニア＞」としていくつかの目標が書かれていました。

その第一は、「わたしたちは、すべての人の居場所・出会いの場となる教会の形成をめざします」というものです。

教会の交わりとは仲間内や気の合った人同士のものだけではなく、外に向かって行くものでなければなりません。そのためには閉ざされた教会ではなく、開かれた教会を目指していくべきなのでしょう。そして交わりの中心にイエス様がいてくださることを感じるのが、大切なのではないのでしょうか。

次回は「マナ」です。お楽しみに。



「エマオのキリスト」

レンブラント・ファン・レイン

(1606～1669 年)

わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。

(ヨハネの手紙一 1 章 3 節)

